

## 最終報告

## 令和7年度 浜松開誠館中学校・高等学校 学校評価(自己評価)

教育宣言	DX教育とユネスコ&SDGsから世界を開き、徳育より日本の心を育み、ありがとうの拡がる学校
学校教育目標	「世界を視野に入れ社会に貢献できる生徒」の育成をめざす ・思いやりの心を持つ生徒 ・自分で考え責任を持って行動できる生徒
令和7年度重点指導目標	「自己肯定感を高め主体性を発揮できる生徒の育成」「信頼される学校」 1. 心を大切に本校の教育の柱「徳育」を確立する→SEL→Well-being 2. ユネスコスクールとしての誇りを持ち、課題解決に向けて主体的に考え行動できる生徒の育成 3. 学力向上(依存的学習者から自立的学習者へ) Beyond IB

評価項目	目標	具体的な活動・取り組み	判定	成果および改善点	学校関係者評価委員による評価 (R8.3.5実施)	
					は自己評価	学校関係者からの主な意見(抜粋)
徳育指導	・徳育事業(授業・出張授業・オープンキャンパス)の充実を図るために、綿密な計画準備のもと、組織的、且つ長期的に取り組んでいく。 ・徳育授業の質を高め、維持・管理する。	・徳育の情報(教育価値)を発信する。 ・生徒の自己実現力や進路実現に繋がるように取り組む(「夢カルテ」、「フォーサイト」の活用推進、「チャレンジ」の意識づけ、プレゼンテーション力の向上) ・「K-compass」「7つの習慣J」プログラムの内容を見直し、修正、改訂する。 ・徳育委員会や生活委員会を中心に挨拶に対する意識向上計画を立て実施する	A	・公立中の出前授業等により、徳育の価値およびその効果は発信できた。 ・夢カルテやフォーサイトの活用によって、生徒の行動計画に関する詩意識付けに効果はあった。今後も効果的な活用の仕方を発信していく。 ・k-compassは、現状の把握をし、3年間のつながりを明確にしたが改訂には至らなかった。7つの習慣Jは、対話型のプログラムを導入し、知識を得ると共に活用する方法も学ぶことができた。その効果については年度末に検証し、改訂していく。 ・年間9回の徳育委員会を開催した。先生方が先頭に立ち行動を取ることで、生徒たちにも良い変化が見られ、学校の風紀が変わった。生活委員も連動して活動をおこなった。	A	・公立学校と違い、本校の特徴となるカリキュラムであり、今後も深掘りして頂きたい。進路ごとの面接等でもリードできる人材が増えると良い。
学習指導	・学習指導要領を実践し、研修テーマにより実践し、質の高い授業を目指す。また、教科の研修テーマに基づいて、研究授業を行う。ICT機器を活用した授業実践をサポートする。 ・評価評定の適切な実施に向けた支援・管理、計画的な教務業務の遂行を促す。 ・読書活動の充実を図る。	・学習指導要領など教育関係時事の情報提供をする。 ・教科会議で評価の目線あわせや教科研修を行い、研究授業の実践と反省会の計画・資料をまとめる。「学ぶ意欲を育む教育」を教科研修のテーマに加える ・AIドリル・ICT機器活用に関する教職員を対象とした講習会を実施する。 ・評定基準の見直しをするほか、入力済評定の確認や妥当性の確認をする。ルーブリックの作成支援を行う ・図書委員会と連携し、読書週間等の呼びかけをする。図書館便りを活用し、定期的に図書等の紹介をする。	B	・教育関係時事や学校としての新しい取り組みの情報提供ができた。 ・教科会議で評価の目線あわせや教科研修を行い、研究授業の実践と反省会の計画・資料のとりまとめを行うことができた。 ・AIドリル、ICT機器活用に関する教職員を対象とした講習会を行うことができた。来年度は大規模なシステム等の変更があるので、そのための研修会を行う。 ・評価評定を適切につけ、生徒・保護者に伝えられるよう呼びかけた。 ・図書委員会と連携し、新規に購入する図書の選定に生徒の思いを反映できるようにした。	B	・学校評価アンケートの内容からも学習面の注目は高い反面、評価は相対的に低い。更なる学習に対する効果を高めて頂けると良い。 ・テスト廃止の効果なども含め、学校の学習の取り組みはデータを蓄積して分析し、より良くしてほしい。
進路指導	・SDGsをふまえた世界・地域社会に貢献する目的と意志を持った生徒を進路活動を通して育成する。 ・生徒・保護者の希望をふまえないながらも、より高い目標を目指すように促し、進路実績、生徒募集活動に貢献し得るものになるように各学年で進路支援を行う。 ・総合型選抜で合格できる学力と特色を持つ生徒の育成に努める。	・SDGs・社会貢献をふまえて将来を見据えた進学先を考えられるよう助言を行う。 ・教員の進路指導力向上のための研修会を企画し運営する。また模試の受験において十分な活用となるよう、生徒、教員に対し事前指導・準備・実施・事後指導を行う。模試結果の分析・振り返り・課題立案を行い教科、学年教員に落とし込みをする。 ・マナビングと連携し、学年教員、生徒へ落とし込みをする。 ・校内大学説明会(KUコネクト)等を実施し、進学意識を高めさせる。生徒に対して有益な進路情報は学年生徒Classiiにおいて情報発信を積極的に行う。 ・チューター指導の円滑な運営を行い、難関大学への合格させられる人材をつくり、進路実績の向上に努める。	B	・6～10月に計11校の大学入試担当者による大学入試説明会を放課後に開催した。希望する大学に生徒が参加し、最新の入試情報を得る機会となった。 ・生徒向けや保護者向けの進路説明会、進路講演会を各学年適切な時期に実施した。 ・高2ミニ・カレッジ(高大連携授業)を10月に実施し、大学教授11名による専門的な深い学びの授業を体験し、進路を考える機会となった。 ・進路決定した高3生徒による1,2年生に対する受験報告会を実施し、進路意識向上へとつながった。校内で実施された進路活動の様子はホームページ等で発信した。 ・年々増加傾向にある年内入試の対策について探究活動や志望理由書作成指導において早期からの準備に取り組んでいくことが大切である。	A	・指定校など充実している。 ・進路は生徒、保護者とも、入学希望者にとっても重要。今後も更なる指定校推薦の確保などに努めて頂きたい。
生徒指導	・生徒指導を通して、社会で通用する考え、行動がとれる生徒を育成する。 ・生徒会や専門委員会の活動等を通して、生徒自らSDGsを意識した活動やよりよい学校づくりを目指し、主体的に活動を行えるようにする。	・週1回、各学年の生徒指導担当者が集まり、課題を共有し、学年教員、生徒へ落とし込みをする。 ・校則検討委員会を引き続き設置し、定期的に意見交換を行う ・生徒集会や生徒新聞の発行、各専門委員会の掲示板などを通して生徒による情報発信を積極的に行う。 ・SDGsを意識した活動を計画・立案・実施できるよう助言する。	B	・週1回、各学年の生徒指導担当者が集まり、課題を共有し、学年教員、生徒へ落とし込みをすることができた。 ・校則検討委員会を引き続き設置し、挙がっている議題について議論を継続している。今年度はロングカジュアルティを7月に導入した。 ・生徒集会や生徒新聞の発行、各専門委員会の掲示板などを通して生徒による情報発信を行うことができた。 ・各専門委員会を通じてSDGsを意識した活動を計画・立案・実施できるよう助言できた。	B	・近年、高校生によるSNSを利用した事件など、学校の現場での事件・事故が大きく取りあげられている。
保健安全管理	・生徒・教職員の心身の健康への支援と不登校・いじめ等の予防、早期発見する。 ・校内美化を推進し、用具を大切に扱う意識の向上を図る。 ・防災意識の向上を図る。	・いじめアンケートなどを実施し、いじめ等の予防、早期発見をする。 ・清掃方法を変更し、一人一人が責任を持って清掃に取り組めるよう環境を整備する。 ・防災訓練の企画、運営を行います。また、防災備蓄品の購入管理、防災への啓発運動を行う。	B	・不登校や悩み等について、HyperQU・知能検査の結果と併せてスクールカウンセラーによる教育相談を実施し、関係職員で共通理解を図った。 ・いじめアンケートを2回実施し、その後の追跡調査をおこない、いじめの防止に努めた。 ・清掃状態のチェック並びに清掃用具のチェックを定期的に行い、清掃環境を整えることができた。 ・校内における防災訓練を2回実施した。また、篠原グランドにおける避難訓練を5月に行った。	B	・部活動におけるルール指針のあり方をもう一度、学校として考えて頂きたい。
外部への情報配信	・徳育を柱とした特色ある教育的取り組みや生徒が活躍する様子をホームページ、SNS等で広く発信する。 ・生徒が主体となってオープンキャンパスを企画、運営することで生徒の活躍をアピールする。 ・ユネスコSDGsを通じたグローバル教育をブランディング戦略の柱とした情報発信を行う。	・ホームページ・SNSを定期的に更新し、本校の教育を内外に広く発信する。 ・広報イベント告知ツールの作成、新聞折り込み、在校生姉妹への配布、電光掲示板の有効活用を行う。 ・プレスリリースを積極的に出す。 ・生徒会、各学年生徒と連携し、生徒が主体となってオープンキャンパスを実施する。・各種イベントでSDGs部の出展ブースを設けることで活動内容を広くアピールする。	B	・ホームページをリニューアルしたことで中学・高校の情報を分けて閲覧することができるようになった。 ・新聞折り込み、在校生姉妹への配布、電光掲示板を活用するなど、ホームページ、SNS以外の方法も用いた発信を行った。 ・SNSを定期的に更新することでオープンキャンパスや学校行事をリアルタイムに発信し、生徒が主体的に学校行事を行っている姿を伝えることができた。 ・生徒のアイデアを活かしたSNSでの配信を行い、生徒の主体性、躍動感を広くアピールしていきたい。	B	・学校HPがリニューアルされたが、ブログの更新が止まっている部がある。 ・部活のSNSの発信内容のルール作りも、学校や教員、生徒を守るため必要。 ・もっとSNS発信を強化しても良いのでは。
地域住民との連携	・地域と連携、協力をし、安心、安全な信頼される学校をめざす。	・地域住民の方々に学校行事(文化祭や体育大会)の案内を出し、参加をしていただくことで、本校の取り組みを知っていただく。 ・地域関係団体との関係を築き、地域との接点を持つ。 ・SDGs教育と連動した取り組みや施設充実、地域貢献を行う。	B	・事務室との連絡をできる限り密にして、学校行事の案内、事前準備を進めることができた。 ・行事自体は、まだまだ改善していけることが多くあったが、それ以上に周りのの方々が楽しく参観していただけたことが良かった。 ・気候マーチももっとPTAの方々に協力を依頼してもいい。	B	・安心して学校に通えていると考える。 ・案内が行事の直前のことがあった。 ・自治会(近隣)との防災訓練はどうか。 ・近隣をパトロールしながら、通りのごみ拾いなどの活動をPTAも含めた行事としてできると地域との開わりが深まる。(気候マーチと絡めて)
グローバル推進	・持続可能な教育を行い、生徒の心の中に「平和の砦」を築く ・SDGs課題について考え解決を目指して行動する生徒を育成する。 ・アジア姉妹校、海外からの学校との交流を行う。 ・異文化学習・異文化理解、異文化に触れる活動、言語学習の機会を促進する。 ・生徒の学習成果を学年を超えて共有するためのアイデアを練り、実施する。 ・生徒のスピーチ力と批判的思考力を高める	・外部から紹介されるイベントを生徒に紹介し、参加する。 ・ホールスクールイベントを開催し、学校全体にユネスコスクールとしての自負を持たせ、行動するきっかけを与える ・SDGsに関わるアクションを生徒が主体的に起こせるようにファシリテートする。 ・姉妹校交流とのパートナーシップを確立・維持し、相互協力、情報の交換、独自の学習活動を行うほか、海外の学校との交流会などの企画を行う。 ・生徒が自信を持って聴衆の前で発表できるよう、英語を使ったイベントを企画する。 ・学生が学習成果を発表する機会を作る。	A	・多く生徒が探究学習を発展させて外部のイベント等に参加した(例:生理を身近にプロジェクト、スポーツ用品の回収プロジェクトなど) ・第8回目の気候マーチを生徒主体で開催し、継続して学校全体で気候変動に対する意識を高めることができた。 ・グローバルコースを中心に英語劇やTEDトーク、中学生のスキットなど英語を使った活動を行うことができた。放課後英語教室も大変人気で、サマープログラムなども評価が高かった。 ・姉妹校のあるモンゴルへの交流も継続して行い、最多の4名のモンゴル人交流生が授業を受けた。また、春季語学研修では新規でセブ島研修を企画し例年以上の生徒が参加した。	A	・本校の特徴となるカリキュラム。 ・ネイティブ教員のアピールを発信していけば入学希望者への意欲につながる。